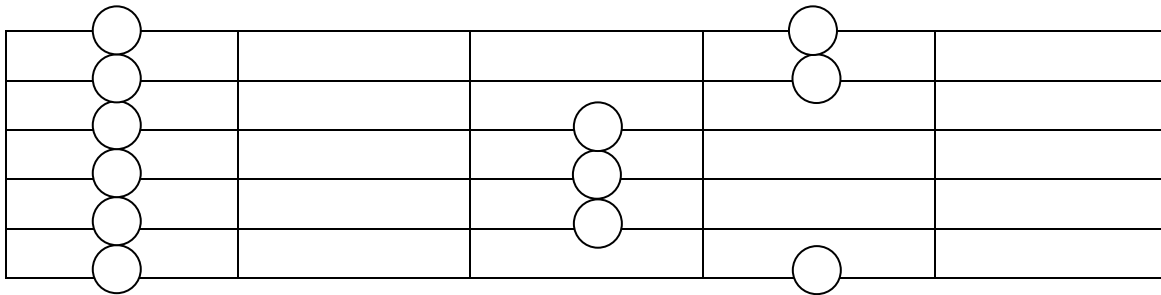


Aマイナーペンタトニックを感情的に聞かせる仕掛け (その1)

f = フレット 1番上の横線が1弦 その下が2弦、そのまた下が3弦…4弦…となります。
○は押さえるフレットです (1度に全て押さえるということではありません。)

●ポジション1



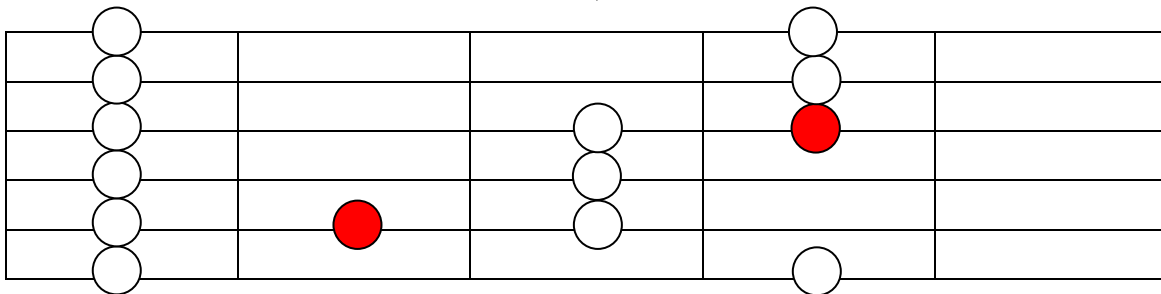
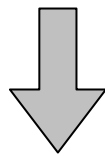
5 f

6 f

7 f

8 f

↑の図は前回覚えてもらった『Aマイナーペンタトニックスケール “ポジション1”』です。
このスケールに、さらに『ブルーノート』と呼ばれる音を足してみます…



5 f

6 f

7 f

8 f

赤丸が『ブルーノート』と呼ばれる音です。

通常のマイナーペンタトニックにこの音を足して弾くと、
憂鬱な雰囲気や暗い雰囲気を持った音になります。

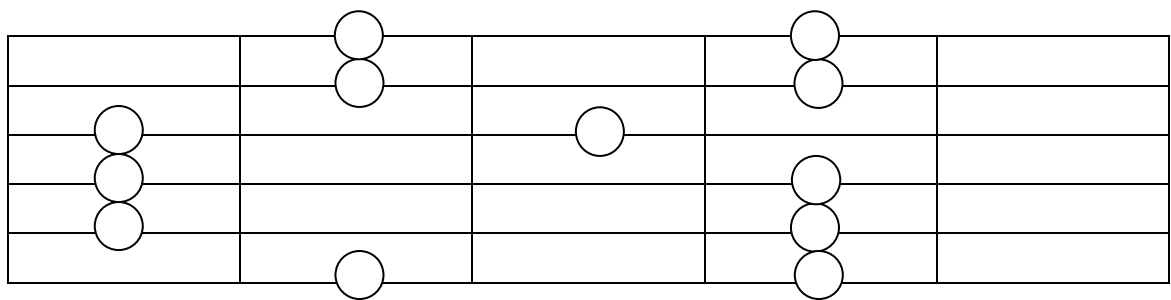
とてもインパクトが強い音なので、さり気なく一瞬だけ所々で入れるようにすると効果絶大です。

フレーズのアタマや最後にブルーノートで終わってしまうと、『ミスった』という感じに聞こえてしまうケースが多くなるので、最初はスライドやハンマリングなどで『経過音として』弾いていく…という感じで試してみてください。

この2つの音を入れるだけでも表現力が数百倍になったような感覚になります。

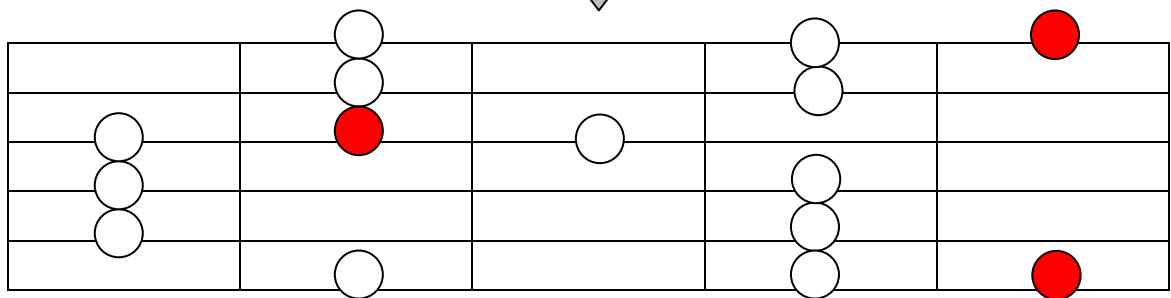
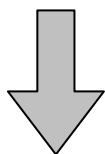
次にポジション2です↓

●ポジション2



7 f 8 f 9 f 10 f 11 f

↑の図は前回覚えてもらった『A マイナーペンタトニックスケール “ポジション2”』です。
このスケールに、さらにブルーノートを足します。



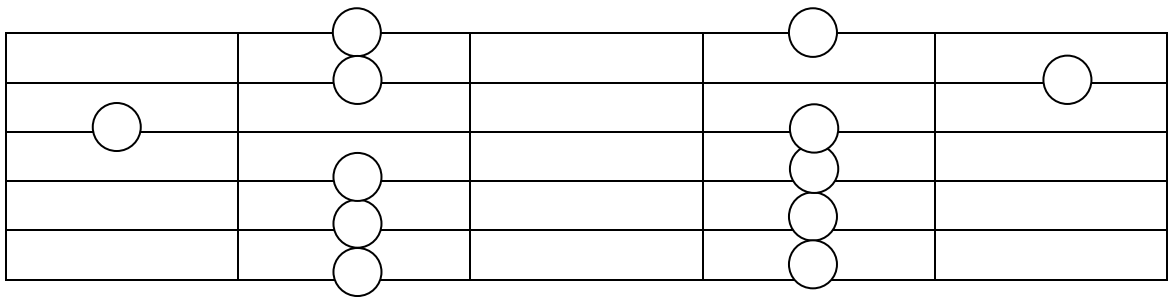
7 f 8 f 9 f 10 f 11 f

赤丸がブルーノートです。

ポジション1のブルーノートも1個ダブってますよね(3弦8fです。)

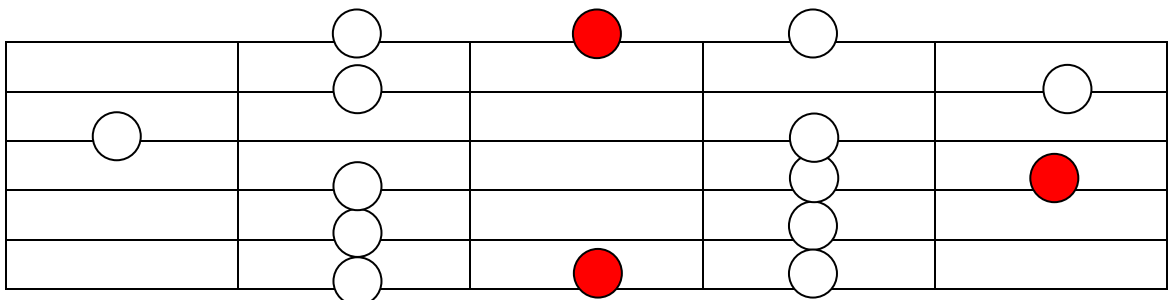
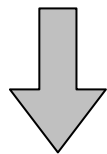
次にポジション3です↓

●ポジション3



9 f 10 f 11 f 12 f 13 f

↑の図は前回覚えてもらった『Aマイナーペンタトニックスケール“ポジション3”』です。
このスケールに、さらにブルーノートを足します。



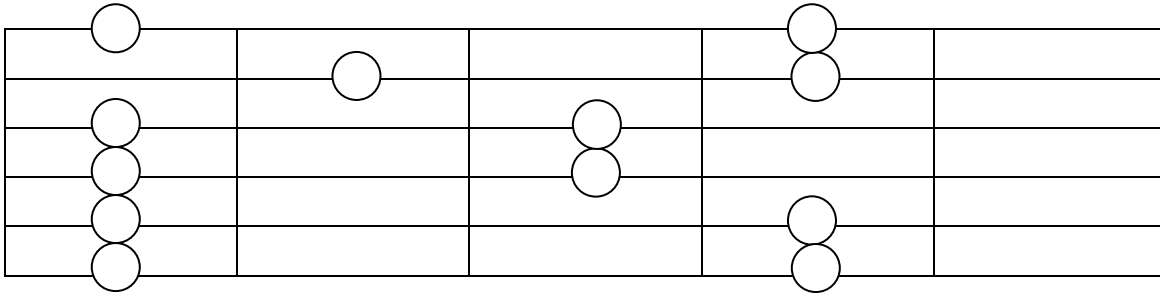
9 f 10 f 11 f 12 f 13 f

赤丸がブルーノートです。

ポジション2示したブルーノートと2つダブってます(1弦11f、6弦11f)。

次にポジション4です↓

●ポジション4



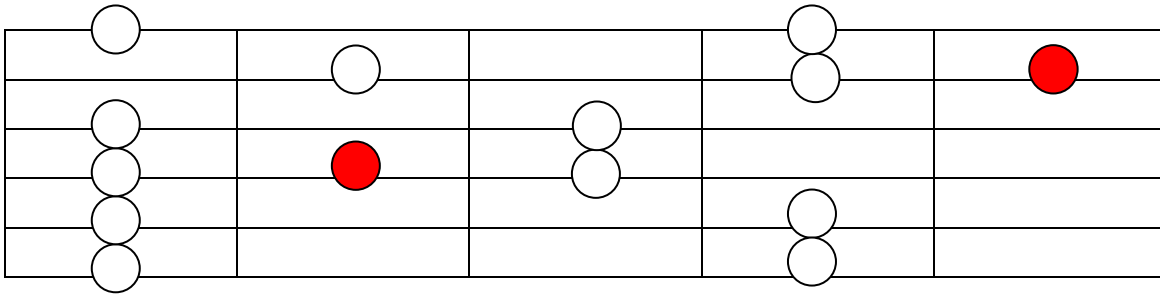
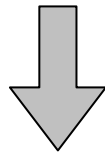
1 2 f

1 3 f

1 4 f

1 5 f

↑の図は前回覚えてもらった『A マイナーペンタトニックスケール “ポジション4”』です。
このスケールに、さらにブルーノートを加えます。



1 2 f

1 3 f

1 4 f

1 5 f

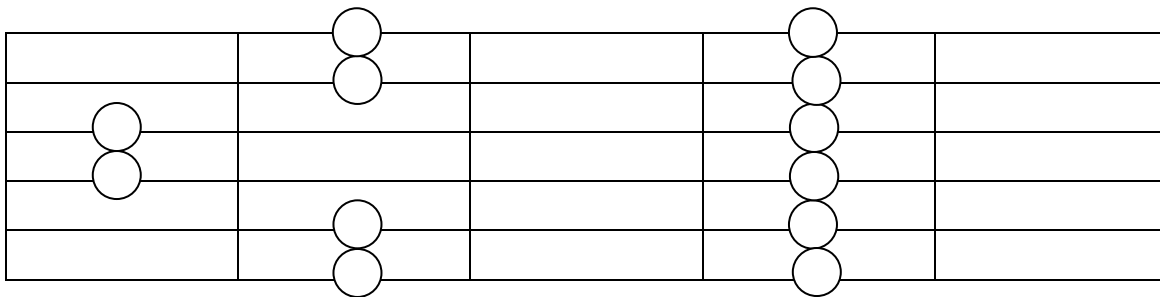
1 6 f

赤丸がブルーノートです。

ポジション2で示したブルーノートと1つダブってます(4弦1 3 f)。

次にポジション5です↓

●ポジション5



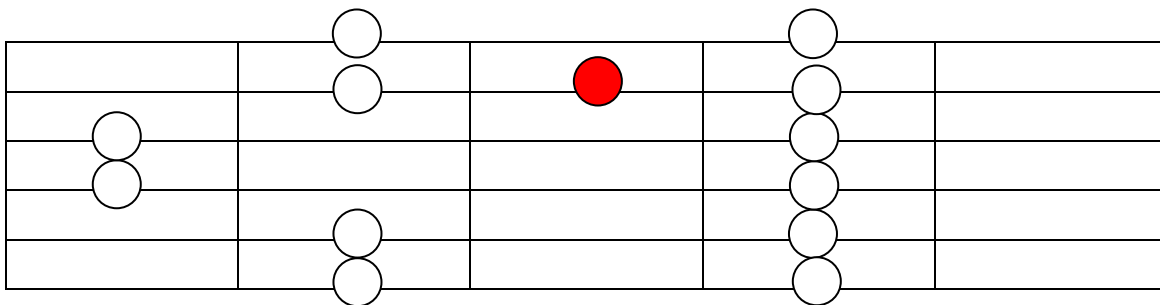
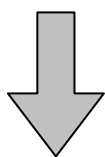
1 4 f

1 5 f

1 6 f

1 7 f

↑の図は前回覚えてもらった『A マイナーペンタトニックスケール “ポジション5”』です。
このスケールに、さらにブルーノートを足します。



1 4 f

1 5 f

1 6 f

1 7 f

赤丸がブルーノートです。

ポジション4で示したブルーノートとダブってます(2弦16f)

以上がマイナーペンタトニックスケールを感情的に聴かせる仕掛けです。

全てのブルーノートの位置は、『オクターヴごとに配置されているだけ』という規則性に気付いたでしょうか？

正直、これを完璧に覚えて使えるようになれば

あとは曲のキーに合わせて同じ形のままそれぞれの5ポジションを『ずらすだけ』で、
全てのキーに対して応用が効くようになります。

ネックを縦横無尽に駆け巡りながらアドリブを弾きまくれるようになる日は近いです。

頑張りましょう♪

エレきち